

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	2402	学校名	曾野木中学校	校長名	橋本 一幸	作成者名	小田 久美子
学校教育推進サポート担当者名			教頭 小田 久美子			電 話	025-280-6414

1 実践のテーマ

中学校を核にした「地域社会」の再生

～学校支援地域本部の設立を通して地域の中核となる学校を創り上げる～

2 テーマ設定の理由

当校では、学校が担う役割を、目の前の生徒が、できないことをできるように、分からないことを分かるようにすること、豊かな世界観を育み、柔らかな人生観を醸成することと捉えている。このことを達成するためには、教員が全力を尽くし、生徒の成長を支えていく必要がある。加えて、これからの多様化する社会において、学校の教育活動には、地域社会と協働して、生徒の豊かな人間性を育むことが強く求められている。地域の教育力を有効に活用し、教員が子どもと向き合い、個々の子どもの抱える課題を解決し、成長を促すことを目指した学校運営を行っていく必要があると考えた。

そこで、学校を支援する組織として、学校運営協議会の実働部隊として学校内に「学校支援地域本部」を組織する。地域を巻き込んだ学校の教育活動を実施することが重要であり、既存の組織ではなく、地域、教職員の「志」で学校を支えていく。学習、環境、放課後活動、地域連携の活動の4点について、「学校支援地域本部」が核となり活動を展開することで、地域社会を学校の中に再生することが期待できる。

3 実践内容

曾野木中「学校支援地域本部」において特に、以下4点について重点を置いて活動する。

(1) 生徒への学習支援ボランティア

学習面において、放課後に学習を見守る体制を整える。地域連携担当職員を中核として配置し、地域ボランティアを多く募り、放課後の時間を活用し、学校を開放して生徒の学習面を支える。また、ICT活用を含めた職員研修サポート、生徒の学びを支える見守り部隊を組織するとともに、地域に開かれた講座を実施し、生涯にわたって学ぶ機会を設ける。将来的には、校内で地域をも巻き込んだ公開講座を行い、パートナーシップ事業との連携を通して、地域の学びの拠点を学校とする。

(2) 学校全体の緑の維持管理（フィールドキーパー活動）

グラウンド周りに植樹した桜の維持管理、校地内の緑の維持、学校行事に向けてのグラウンド等の整備について、学校支援地域本部が中心となり、日常的に活動に当たる。広大な敷地をもつ当校において、用務員と連携し、生徒、教職員と共に地域全体で学校の施設、設備を守っていく活動とする。

(3) 部活動を中心とした活動の見守り（地域クラブ運営活動）

令和8年度の部活動の地域展開に向けての準備段階として、学校支援地域本部が中心となって、地域クラブ（曾野木クラブ）運営部を設立する。学習面の支援と並行して、放課後の生徒の活動を見守り、支援する。

(4) 地域「祭」連携活動

地域の祭に学校支援地域本部が中心となって積極的に参加する。内容、活動について地域が中心となり学校が協働して、企画、運営する。

上記の活動部を運営するに当たり、学校支援地域本部の全体会議を4月、5月、7月の3回実施し、活動の目的、内容等について熟議する。また、本部役員会は活動の計画段階で複数回実施し、地域と学校の調整や準備活動を行う。

4 実践計画及び活動の実際

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開 等）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部立ち上げ会議 ・PTA、地域コミュ協との連携会議 ⇒ 組織固め及び運営部の主な役割分担、活動内容の共有 ・学習面を支える放課後活動・学習支援ボランティア ⇒ 地域、学生への呼びかけ
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブ運営活動開始
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・曾野木中「学校支援地域本部」研修会 ・フィールドキーパー活動会議 ⇒ 実施時期、内容協力要請の具体の検討
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドキーパー活動開始
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域「祭」調整会議 ⇒ 学校と地域の役割分担、生徒ボランティアの協力準備確認
9月・10月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域「祭」連携活動 食育との連携 ⇒ 農産物直売所との打ち合わせ
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブ運営活動の推進 ⇒ 打ち合わせ会議における行事の詳細、協力要請、準備
1月・2月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携事業「そのき新春もちつき大会」 ・次年度に向けての打ち合わせ会議

5 成果

(1) 生徒への学習支援ボランティア

総合型クラブ「曾野木クラブ」の立ち上げを行い、学習面において、放課後に学習を見守る体制を創り上げた。放課後の図書室を開放することから開始し、地域ボランティア、学生ボランティアを募り、生徒の学習面を支える体制を整えた。



地域本部研修会・CS委員と共に

(2) 部活動を中心とした活動の見守り（地域クラブ運営活動）

令和8年度の部活動の地域展開に向けての準備段階として地域クラブ運営部を設立した。学習面の支援と並行して、放課後の生徒の活動を総合型クラブ「曾野木クラブ」が中心となり見守り支援する。

曾野木クラブの運営中心は学校支援地域本部である。



曾野木クラブ運営部

(3) 学校全体の緑の維持管理（フィールドキーパー活動）

地域本部が中心となり、グラウンドの整備を実施した。地域本部の呼びかけにより、保護者、地域の方合計約40名の協力を得て整備活動を行った。グラウンド整備は、生徒参加のPTAによるグラウンド除草と合わせて、7月～9月の間に計3回実施した。

フィールドキーパーの活動運営に際し、6月に「運営会議」を実施した。校地内整備が持続可能な活動となっていくことを目標に、呼びかけの方法や地域への周知、施設設備の管理の方法等について多くの意見をいただいた。それらをもとに地域へ広く呼びかけ、3回の校地整備活動を実施した。

整備活動以外にも、体育祭に向けての物品準備等、学校支援地域本部が中心となり活動した。特に、体育祭の準備としてテント設営や物品運搬などについて、学校支援地域本部と学校が協働して活動を行うことができた。



草払い機等運び入れ，7月～9月で3回実施

(4) 地域「祭」連携活動

10月実施の「ふれあい曾野木まつり」では、中学校の体育館を開放し、地域の方が多数参加することができた。中学校の取組として①「特殊詐欺被害拡大防止推進活動」②吹奏楽部の演奏参加③曾野木地区の食材を活かした「曾野木の味（魅）力たっぷり弁当」の考案、販売④生徒の祭運営ボランティアの活動を行った。

夏、冬の時期に曾野木コミュニティセンターで実施したコミュニティ協議会主催の「曾野木田んぼマルシェ」には、学校支援地域本部の呼びかけで中学生ボランティア約20名が参加した。曾野木地区の農産物の販売や、来場者にスタンプラリーを呼びかけるボランティアとして参加した。「田んぼマルシェ」は、中学生が地域と共に活躍し、地域の活性化につながるイベントとなっている。

2月には、学校支援地域本部が中心となり、地域の方の協力を得て「そのき新春もちつき大会」を実施した。曾野木の食材を感じ体験し、曾野木地区の良さを体験する機会となった。



【ふれあい曾野木まつり】中学校の体育館を会場に地域住民が多数参加。生徒の寸劇で特殊詐欺被害防止を地域に発信し、曾野木の特色を生かした弁当の販売を実施。祭の運営に生徒ボランティアが多数参加した。



【新春もちつき大会】曾野木の米を使用して米農家の方が中心となりもちつきを実施。地元「七味の会」の皆さんからもち詰めのお手伝いをいただいた。生徒は給食でつくたてのもちをいただいた。

6 次年度に向けて

令和8年度は、組織は上記成果の(1)と(2)を統合し、曾野木クラブ運営部として活動を推進する。事業にかかる経費について、受益者負担と後援会やコミ協等の協力を得ながら進めていく必要がある。人材について、地域の協力や大学生等の協力を得て、見守りボランティア、指導にあたる協力者等を発掘、供給していくことで、安定的に展開していきたい。

次年度は、地域の方々が、常時滞在できるようにし、地域社会が日常的に校内にあるようにしていく。その状態をつくることを目標に、活動を推進していく。

